

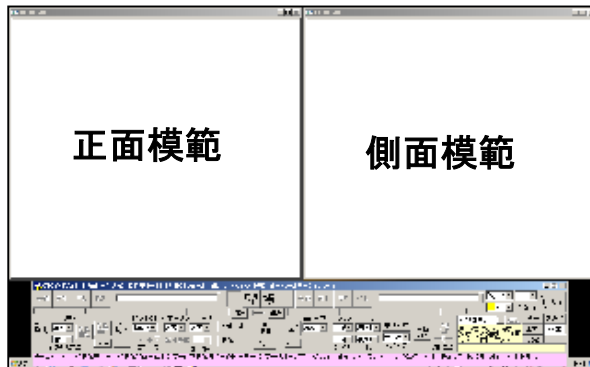
## OTCV-8のご提案(体育運動編例えば逆上がり)

### 1、「逆上がり」の説明

逆上がり(さかあがり)は鉄棒運動の上がり技の一つ。地面に足をつけた状態から始め、体を後方に回転させながら棒上に上がる。

持ち手は鉄棒に対してそのまま握り込む「顺手」で行う。これは、回転時に胴体を鉄棒に引きつけられるようしっかりと握る必要があるからだ。地面を蹴って下肢を上方に持ち上げ、胸を鉄棒に引きつけて鉄棒に密着させるような形で後方に回転し、棒上で体を支持する(低学年では支持が難しいため、そのまま勢いで後方に着地することも多(「ウィキペディア」逆上がりから引用)

正面・側面 模範映像の再生で説明

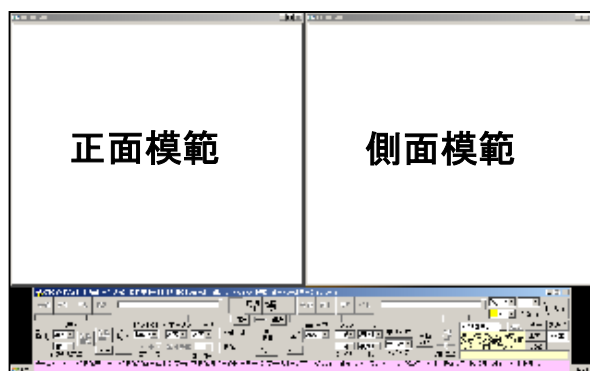


・OTCV8:模範教材を事前に作り使用(AとBに撮影した映像を表示する教材データ)

### 2、ポイント

胸部から腰部を軸として回転する技であるため、これが鉄棒から離れてしまうと支えを失い落下する。よって、いかに胴体を鉄棒に近付けることができるかが重要な点となる。このためにはまず強く地面を蹴ること、顺手で握って肘を伸ばさず鉄棒を引き寄せるようにすることが必要である。また、脚が棒上に上がらず失敗する場合には、頭を後方に下げること、そして脚をなるべく棒の後方に伸ばすことを意識するとよい。最(「ウィキペディア」逆上がりから引用)

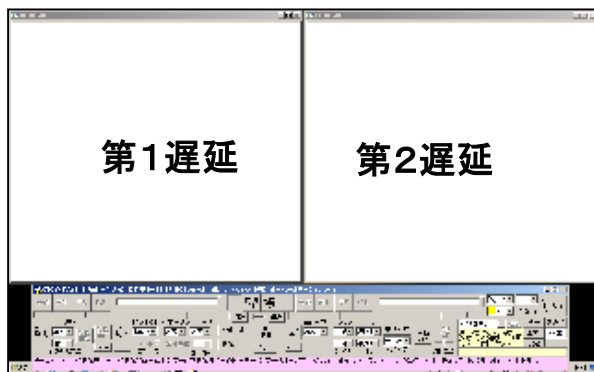
正面・側面 模範映像をAB同期、スロー、コマ送り戻しを使用して説明



・OTCV8:模範教材を事前に作り使用(AとBに撮影した映像を表示する教材データ)

### 3、実際に行う

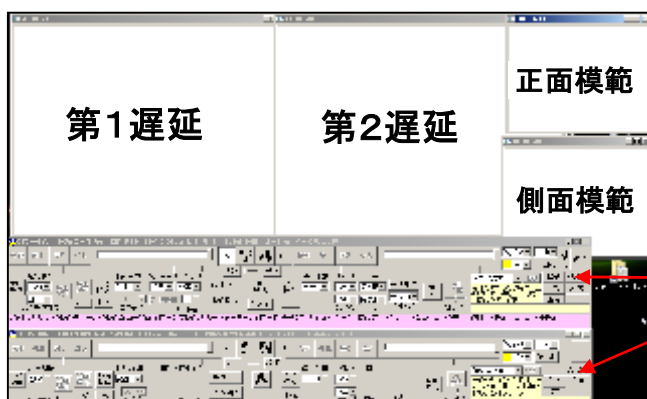
特定の角度から遅延映像で本人自身の確認してみる



・OTCV8:Webカメラかビデオカメラ+キャプチャー装置を使用し、遅延機能を使う

### 4、模範映像も表示

もうひとつOTCV8(OTCV8フォルダーをもう一つコピーしておきます)を起動し、模範映像を表示し



・OTCV8:Webカメラかビデオカメラ+キャプチャー装置を使用し、遅延機能を使う。また、もう一つ立ち上げたOTCV8で模範教材を表示し、作図や調整をして、スローで繰り返し再生する。

OTCV8を2つ起動していますので、操作パネルは2つ表示されます。パネルのタイトル欄に起動したフォルダー名が表示されています

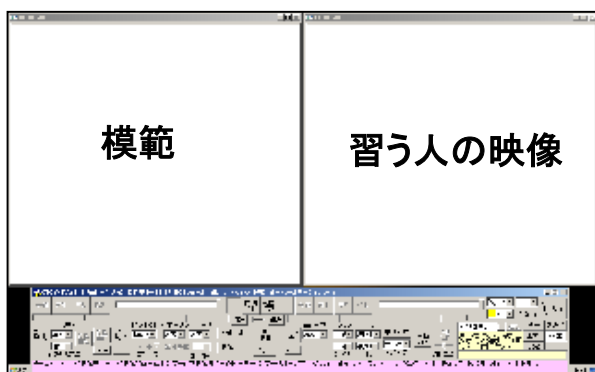
### 5、模範映像も表示

上手に出来ない時は、模範と同じ角度からキャプチャーしてみて比較して見ます。

この時作図や同期、コマ送りで違いを明確にします。

違いの解決策を考えます。→ 解決のためのメニュー運動

→ 4の遅延と模範に戻る



・OTCV8:模範映像と撮影した習う人の映像を比較して見ます。撮影映像はWebカメラ、ビデオカメラ+キャプチャー装置、デジタルカメラの映像を使用します。(デジタルカメラの映像は、AVI、MOVIに対応が好ましいです)